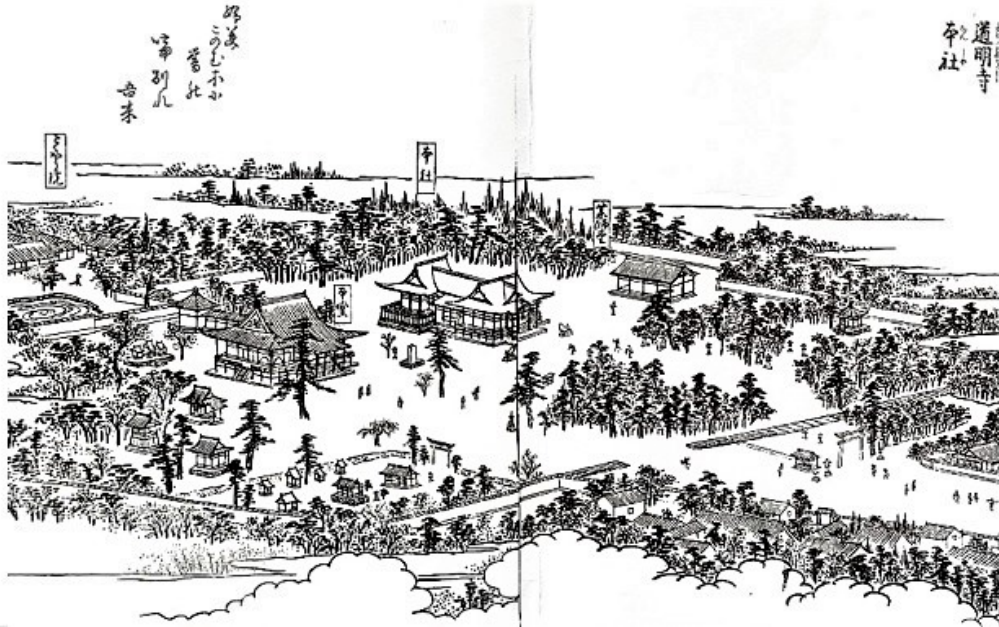


11. 河内名所図会を訪ねて その五 道明寺

～天満宮をさがせ～

一度でも、お参りされたことのある方は「おや？」と首を傾げられるでしょう。この河内名所図会に描かれた場所は、現在、道明寺天満宮です。河内名所図会の文中には「天満宮」とありますが、絵の中には道明寺天満宮の名を見つけることができません。絵図の表題は「道明寺・本社」とあります。

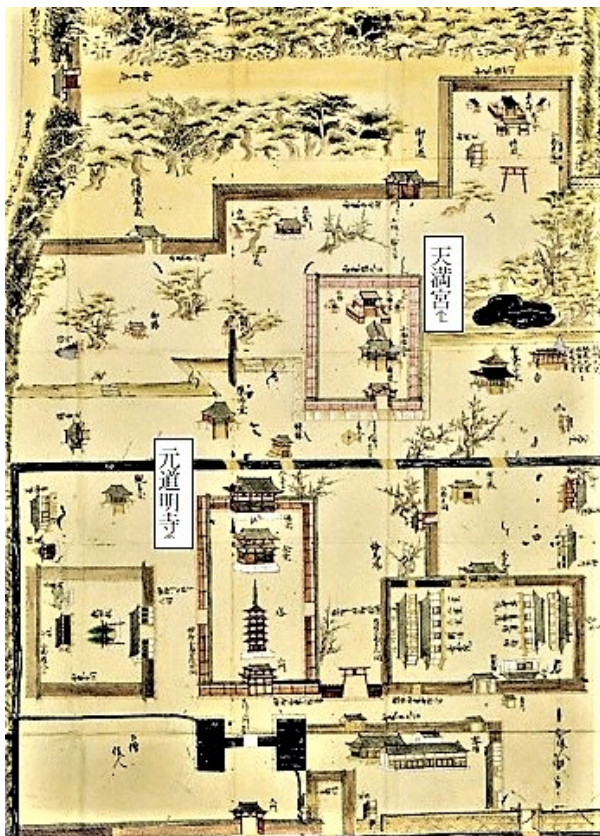


・土師の郷

この辺りは、古墳造りに活躍した土師一族の郷でした。道明寺は聖徳太子の発願に応じて、土師八嶋が尼寺として創建したもので、「土師寺」と言われていました。そして、北側の高台には、土師氏の祖先神を祀る「土師社」がありました。菅原道真公はこの土師氏の子孫で何度もこの地を訪れるなどたいへんゆかりのある方でした。天神信仰の高まりとともに道真公の幼名や和歌にちなんで「道明寺」「道明寺天満宮」と呼ばれるようになりました。また、道明寺は道真公の叔母君覚寿尼様をはじめ、代々、公家出身の尼君が住持される格式のある尼寺で、天満宮などのお祀りもこの尼君方が行ってこられました。そのため、寺社を総称して「道明寺」と呼ばれていたのです。

・道明寺の引っ越し

これは、「道明寺往古伽藍絵図」というもので、現在の道明寺天満宮の石段の下に堂塔伽藍が並んでいるのが分かります。もともと道明寺はこの地に創建されたものだったのです。ところが、織田信長の河内攻めで被災し、江戸時代には二度にわたる石川の氾濫によって、多くの堂宇を失いました。そこで、水害の心配のない、高台に引っ越ししました。本社(天満宮)と本堂(道明寺)が並んで描かれた河内名所図会のできたころは、天神信仰が庶民にまで広がり、浄瑠璃や歌舞伎の舞台にもなった道明寺は河内の一大観光スポットだったのです。



二度目の引っ越しは、明治元年の神仏分離令によるものでした。この時、もとの境内は道明寺天満宮となりました。一方、道明寺は廃寺になる寸前でしたが、尼君方の奔走や地元の人々の嘆願によって存続が決まり、東高野街道を挟んで西側の地に引っ越すことになりました。それが、現在の道明寺です。 （2020/3 小田島）